

未来を拓く国語教育の創造

—主体的・対話的で深い学びが育つ单元作り—

読むこと部研究主題

「主体的・対話的で深い学びとなる読むことの单元作り」

平成 29 年度本部提案・研究主題の設定について(5/8)より

これからの学校には、以下のような「生きる力」を育むことが求められている。

- ・自分の良さや可能性を認識する。
- ・あらゆる他者を価値のある存在として尊重する。
- ・多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越える。
- ・未来ある豊かな人生を切り拓く。
- ・持続可能な社会の作り手となる。

これらの「生きる力」を育むには、知識技能の確実な習得、思考力、判断力、表現力等の育成、学びに向かう力や人間性等の涵養が偏りなく実現していくことが重要。そのためには、单元作りを一層進めていくことが必要で、研究主題を「未来を拓く国語教育の創造」とした。



○平成 29 年度 読むこと部研究内容

①読むことにおける「未来を拓く」とは、

☆読みを通して習得した言葉の力を生活の様々な場面で活用することによって、主体的に学んだり、よりよい人間関係を築いたり、読書生活を広げたりして、自分の生活を豊かにしていくこと。

=**実生活に生きる言葉の力**を育てること。

②読むことの指導を通して身に付けたい実生活に生きる言葉の力

◎国語科の学習において、児童が主体的に文章に向き合って読み、自分の思いや考えをもつとともに、対話的な学びを通して、その自らの考えを広げ、深めたり、新しい考えを生み出したりする力。

◎身に付けた読みの力を、新たな国語科の学習や他教科、生活の中で目的、相手、意図、場所や状況に応じて使うとともに、その力を発展させたり、新たな力を作り出したりしていく力。

(具体例) ※目的、相手、意図、場所や状況に応じて

- ・進んで読書をする ・話し合う ・解釈・評価する ・思いをもって交流する
- ・人と交渉する ・相手の意図をくむ ・本を紹介する ・知識を伝達する
- ・課題解決のために本を選ぶ ・気持ちを押し量る ・知識を応用する、活用する
- ・本で調べる ・対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動を行う・・・

③読むこと部目指す児童の姿

◎読みを通して習得した言葉の力を生活の様々な場面で活用することによって、主体的に学んだり、よりよい人間関係を築いたり、読書生活を広げたりして、自分の生活を豊かにしていくことのできる児童。



平成29年度本部提案・研究主題の設定について(5/8)より 授業改善の視点

【主体的な学びの視点】

学ぶことに興味や関心をもち、実社会や実生活との関わりを重視し、見通しをもって粘り強く取り組み、児童が自らの学習活動を振り返って次の学習へとつなげていく「主体的な学び」の視点。

【対話的な学びの視点】

児童同士、児童と教職員や地域の人々などが互いの知見を伝え合ったり議論したり協働したりすることや、書物等先哲の考え方を手掛かりに考えたことなどを通じて、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の視点。

【深い学びの視点】

習得・活用・探究という学習の過程で、「言葉による見方・考え方」を働かせて、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、解決しなければならない問題を設定して解決策を考えたり、自分の考えや思いを基に創造したりする「深い学び」の視点。



④研究主題に迫るために

○主体的な学び、対話的な学び、深い学びをどう捉え、そのためにどのような工夫をするか。

(1) 言語活動の工夫

言語活動は、言語能力を育成するとともに、各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力を身に付けるために充実を図るべき学習活動である。(次期小学校学習指導要領解説総則編(以下解説)第3章第3節の1(2)言語環境の整備と言語活動の充実)

- ①児童の課題意識が持続する言語活動を工夫した単元を開発する。
- ②本概要、「読むことの指導を通して身に付けたい実生活に生きる言葉の力」をもとにして、当該単元での指導事項を確実に指導し、目標を達成するために、最もふさわしい言語活動を設定する。
- ③課題を主体的に解決していけるような活動にする。
- ④対話的な学びが生まれる活動にする。
- ⑤児童の自主的、自発的な読書活動に結びつくものにする。

<過去3年間で取り入れていない言語活動>

- ◇音読・朗読 ◇物語の感想発表、読書座談会 ◇詩を読む ◇新聞を読む ◇演じる ◇紙芝居
 - ◇本や図鑑・事典などを利用した説明 ◇科学的読み物の感想や紹介
- 新指導要領の言語活動例も参考に。

(2) 学習過程の工夫

読むことの学習過程(新指導要領)・・・内容と構造の把握、精査・解釈、考えの形成、共有
思考・判断・表現の過程には、

- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

の大きく三つがある。(解説第3章第3節の1(1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善)

- ①考えの形成を重視した過程にする。
- ②児童自らが主体的に学習課題や学習活動を選択する機会を設ける、児童と教師が一緒になって作成し、単元の途中で修正できる柔軟な学習計画にするなど、児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を展開する過程にする。
- ③主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びの変容を自覚できる場面を設定する。
- ④児童が考える場面と教師が教える場面を効果的に設定する。
- ⑤対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面を適切に設定する。

(3) 指導と評価の一体化の工夫

児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習の状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。（解説第3章第3節の2(1)指導の評価と改善）

- ①評価規準を明確にした上で、適切な場面、方法で評価を行う工夫。学習の成果だけでなく、過程も重視し、一人一人の学習状況に応じた補充・発展的指導に生かしていくような評価をする。
- ②学習における進歩の状況の意識ができるような評価の工夫をする。
- ③進んで学習しようとする態度が育つような評価の工夫をする。
- ④学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びの変容を自覚できる場面を設定し、次の学習へと生かしていけるようにする。
- ⑤児童による学習活動としての相互評価や自己評価を工夫する。
- ⑥児童が主体的に読み進められるようにするための手引きや学び方・モデル等の工夫をする。

・主体的・対話的で深い学びのために必要なこと・態度

- ①文章を読んで、自分の考えをもつこと。自分が学習者として自立していること。相手に依存しないで話し合うために考えを確立させること。
 - ②読みを通して自分で考えたことを明らかにし、人に伝えること。相互の信頼関係。人の考えを尊重したり、受け止めたりする態度。
 - ③人と話し合っ、自分の考えたことを進めようとする。
 - ④自分の読み、既習事項や人と話し合ったこと、他の人のアイデア等を組み合わせて、自分の考えを進化・深化させたり、新しいものを作り出したりすること。
- 主体的・対話的な学びとは、多様で、自分とは違った考えを持った他者との交流が必要。その学習者同士を結び付けるものは、課題を解決したいという思い。だから、課題意識を高め、共有し、持続させることが重要になる。

今後の予定について

9・28(木) 運営委員・授業者会	(新宿区立落合第五小学校)	研究授業事前研究(各分科会の指導案検討)
10・19(木) 第一回研究授業	(品川区立京陽小学校)	三年 授業者 教諭 上野美智恵 講師 岸本 修二先生
10・26(木) ◎小研第二回研究授業	(板橋区立中根橋小学校)	二年 授業者 主任教諭 平形裕司 講師 岸本 修二先生
11・6(月) 第三回研究授業	(北区立西が丘小学校)	四年 授業者 教諭 松平真凡
11・28(火) 第四回研究授業	(目黒区立中根小学校)	六年 授業者 主幹教諭 市川明日香 講師 岸本 修二先生
12 運営委員・授業者	(新宿区立落合第五小学校)	